

平成30年度

北海道高等学校教育研究大会教科別集会

情報部会

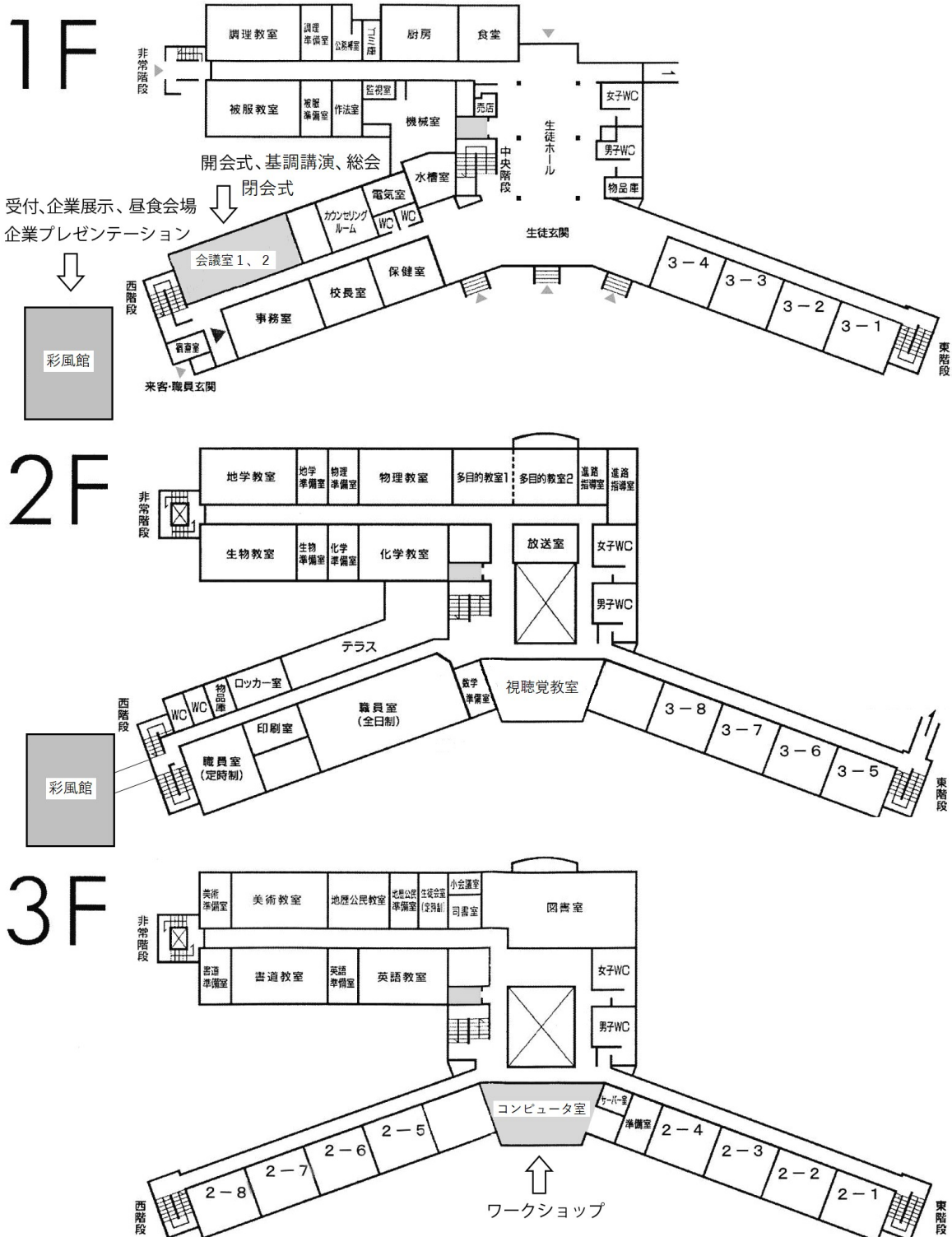
北海道札幌北高等学校 平成31年1月10日(木)

1	時程	1
2	会場平面図		
3	企業展示・企業プレゼンテーション進行表	2
4	総会		
	(4-0) 総会次第	3
	(4-1-1) 平成29年度 一般会計収支決算	4
	(4-1-2) 平成29年度 特別会計収支決算	5
	(4-1-3) 平成29年度 積立会計収支決算	6
	(4-2) 平成30年度 役員構成	7
	(4-3-1) 研究紀要		
	(4-3-2) キャラバン研究会		
	(4-3-3) 情報教員養成プロジェクト	9
	(4-3-4) 新授業レシピプロジェクト		
	(4-3-5) 平成30年度高教研情報部会アンケート集計結果報告		
	(4-3-6) 全国高等学校情報教育研究会全国大会参加報告	15
	(4-4-1) 平成30年度 一般会計予算	16
	(4-4-2) 平成30年度 特別会計予算		
	(4-4-3) 平成30年度 積立会計予算		
	(4-4-4) 平成30年度 一般会計中間報告	17
	(4-4-5) 平成30年度 特別会計中間報告		
	(4-4-6) 平成30年度 積立会計中間報告		
	(4-5) 平成31年度の研究テーマ	18
	(4-6-1) 研究紀要	19
	(4-6-2) キャラバン研究会		
	(4-6-3) 高教研情報部会アンケート		
	(4-6-4) 全国高等学校情報教育研究会全国大会参加派遣		
	(4-7-1) 平成31年度 一般会計予算案	20
	(4-7-2) 平成31年度 特別会計予算案		
	(4-7-3) 平成31年度 積立会計予算案		
5	その他		
	(5-1) 北海道高等学校教育研究会情報部会規約	21
	(5-2) 参加者名簿	23
	(5-3) 懇親会のご案内	24
6	アンケート用紙	26~28
	(ご記入のうえ、閉会式後に冊子から外してご提出ください)		

1 時程

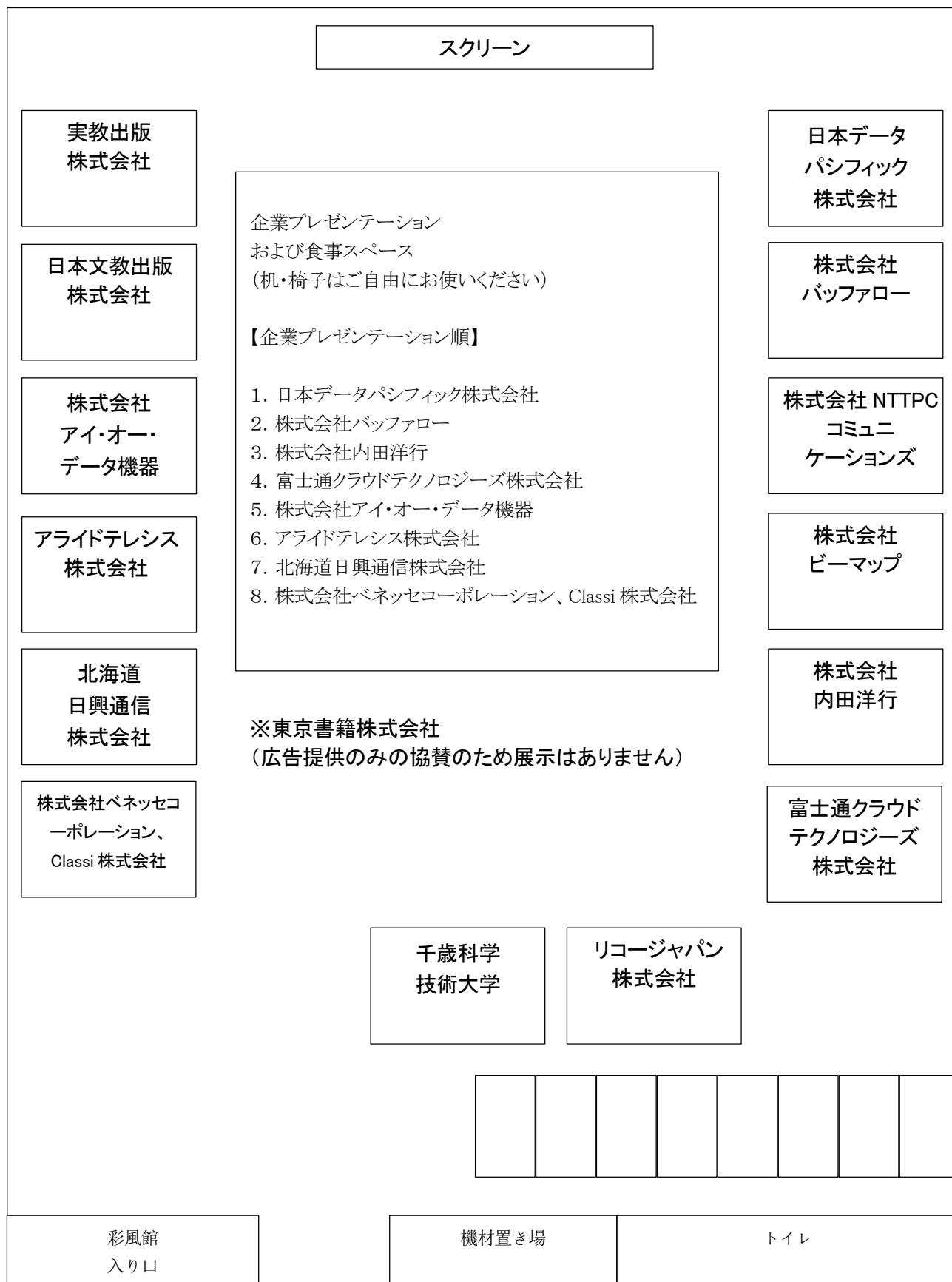
8:30~ 9:00	受付
9:00~ 9:10	開会式
9:20~12:30	ワークショップ
12:30~13:20	昼食・休憩
13:20~14:10	企業プレゼンテーション・企業展示
14:10~15:40	基調講演
15:40~16:20	総会・閉会式

2 会場平面図



3 企業展示・企業プレゼンテーション進行表

彩風館1階 会場図



4 総会

4-0 総会次第

*報告事項

- 1 平成29年度 収支決算
 - ・平成29年度 収支決算報告（一般・特別・積立）
 - ・平成29年度 会計監査報告（一般・特別・積立）
- 2 平成30年度 役員構成
 - ・役員構成
- 3 平成30年度 事業報告
 - ・研究紀要
 - ・キャラバン研究会
 - ・高教研情報部会アンケート集計結果報告
 - ・全国高等学校情報教育研究大会参加報告
- 4 平成30年度 会計執行状況

*審議事項

- 5 平成31年度 研究テーマ
- 6 平成31年度 事業案
 - ・研究紀要
 - ・キャラバン研究会
 - ・情報教員養成プロジェクト
 - ・新授業レシピプロジェクト
 - ・高教研情報部会アンケート
 - ・全国情報研究大会参加派遣
- 7 平成31年度 予算案（一般・特別・積立）

*その他

- 8 その他

4-1-1 平成29年度 一般会計収支決算

(様式 教-7-3)
平成29年度 会計収支決算書 (研究調査費)

平成30年1月22日

北海道高等学校教育研究会 情報部会

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)	摘 要
繰 越 金	250,000	335,901	85,901	
本 部 交 付 金	228,430	234,920	6,490	
雑 収 入	0	3	3	利息
合 計	478,430	570,824	92,394	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)	摘 要
講師旅費・謝金	180,000	175,000	△ 5,000	謝礼、交通費
事業費	50,000	9,905	△ 40,095	サーバ利用料、フラットファイル等
会場費	100,000	0	△ 100,000	札幌北高彩風館
運営費	30,000	16,980	△ 13,020	役員昼食、飲み物等
研究調査費	30,000	3,446	△ 26,554	DVD-R, CD-Rメディア
備品運搬費	10,000	0	△ 10,000	
事務通信費	10,000	3,792	△ 6,208	郵送料、振込手数料
備品購入費	15,000	0	△ 15,000	
予備費	53,430	0	△ 53,430	
合 計	478,430	209,123	△ 269,307	

(収入額) (支出額) (残高)
¥570,824 - ¥209,123 = ¥361,701 [平成30年度へ繰越]

平成29年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。
平成30年1月22日

監査(監事)

小甲 正



天野 将寿



※注 ①収入・支出科目にない科目がありましたら適宜設けてください。
支出科目例—研究助成金、会議費、印刷費、消耗品費、通信費、予備費、運営費等。
②領収書(原本)などの証拠書は、各地区支部、各教科部会で保存してください。
本部事務局から提示を求められたら提出してください。

4-1-2 平成29年度 特別会計収支決算

(様式 教-7-3)

平成29年度 特別会計収支決算書

収入の部

北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)	摘 要
繰 越 金	60,000	59,089	△ 911	
企業広告協賛金	100,000	100,000	0	
雑 収 入	0	2	2	利息
合 計	160,000	159,091	△ 909	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)	摘 要
運 営 費	60,000	34,062	△ 25,938	【札幌キャラバン】 ¥26,770 【帯広キャラバン】 ¥0 【旭川キャラバン】 ¥7,292
役 務 費	90,000	103,170	13,170	【札幌キャラバン】 ¥16,910 【帯広キャラバン】 ¥59,920 【旭川キャラバン】 ¥26,340
積 立 会 計	0	0	0	
予 備 費	10,000	82	△ 9,918	領収証送付
合 計	160,000	137,314	△ 22,686	

収入額 159,091 — 支出額 137,314 = 残高 21,777

[平成30年度へ繰越]

平成29年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

平成30年3月28日

監査（監事）

小甲 正

天野 将寿



平成29年度 積立会計収支決算書

収入の部 北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	収 入 額	摘 要
繰 越 金	89,192	
積 立 金	0	特別会計より
雑 収 入	0	
合 計	89,192	

支出の部

科 目	支 出 額	摘 要
運 営 費	0	
役 務 費	67,280	高情研全国大会派遣旅費
事 務 通 信 費	0	
予 備 費	0	
合 計	67,280	

収入額 — 支出額 = 残高
 89,192 67,280 21,912

[平成30年度へ繰越]

平成29年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

平成30年3月28日

監査（監事）

小甲 正

天野 将寿



4-2 平成30年度 役員構成

01	部会長	佐藤 健	北海道えりも高等学校	
02	副部会長	高橋 昭仁	北海道札幌北高等学校	
03	〃	古屋 順一	北海道美唄聖華高等学校	
04	監事	小甲 正	北海道札幌南高等学校	監査
05	〃	天野 将寿	市立札幌新川高等学校	監査
06	幹事	池田 弘樹	北海道滝川高等学校	サマースクール/新授業レシピプロジェクト
07	〃	伊藤 崇	北海道伊達高等学校	サマースクール/キャラバン研究会
08	〃	梅田 充	北海道札幌英藍高等学校	会計/サマースクール/ワークショップ/企業展示
09	〃	奥村 稔	北海道有朋高等学校	サマースクール/ワークショップ
10	〃	鎌田 亮樹	旭川藤女子高等学校	キャラバン研究会/サーバ管理
11	〃	金谷梅太郎	北海道鹿追高等学校	
12	〃	津端 公彦	北海道小樽潮陵高等学校	新授業レシピプロジェクト/企業展示
13	〃	古澤 正三	札幌北斗高等学校	サマースクール
14	〃	前田健太郎	北海道札幌北高等学校	情報教員養成プロジェクト/キャラバン研究会
15	〃	宮川 尊充	北海道帯広緑陽高等学校	サマースクール
16	事務局担当	鶴間 伸一	北海道札幌英藍高等学校	運営・渉外/基調講演/研究紀要(募集)/情報教員養成プロジェクト/キャラバン研究会(サマースクール)/

4-3-1 研究紀要

例年通り、研究紀要への執筆者を choice ウェブページおよび choice メーリングリストを通して募りましたが、今年度は執筆の希望はありませんでした。

来年度も執筆の募集を行います。日頃の研究の成果を研究紀要としてまとめてみませんか。執筆を希望される方は高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

4-3-2 キャラバン研究会

キャラバン研究会は、積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、実務的な研修を行うものです。

学校事情や移動距離などにより1月の高教研情報部会の研究集会に参加できない先生方や、都市近郊から離れた土地で情報科を一人で担当して悩みを抱えている先生方などが、少しでも負担を感じることなく研修に参加する機会を設けるために始まりました。

キャラバン研究会は、今までに36回の開催を経て、様々なフィードバックを得て少しずつ進化し続けています。教育実践の発表だけでなく、ワークショップや懇親会を通じて、多くの仲間達との出会いの場としても大きな位置を占めるようになってきました。これからも各地の学校を会場としてお借りして、より多くの先生方と交流できる機会を持ちたいと願っております。

キャラバン研究会は、皆様からのご要望があれば地域の研究会と共同開催させていただくことも、単独開催させていただくことも可能です。全道各地を巡回することも目標の一つとしています。学校事情等で1月の研究大会に参加が難しい地域での研究会開催や、地区の研究会の活性化にもお役に立てると思います。ご要望があればお応えします。高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

キャラバン研究会 昨年度までの実績

	A 地区 石狩・空知・後志	B 地区 渡島・桧山・胆振・日高	C 地区 上川・留萌・宗谷	D 地区 オホーツク・十勝・釧路・根室
平成 18(2006)年度		01 伊達 (09月16日)		
平成 19(2007)年度	02 倶知安 (10月27日)25名		03 旭川藤 (2月23日)22名	
平成 20(2008)年度		04 函館西 (10月18日)17名		05 帯広三条 (10月25日)26名
平成 21(2009)年度	06 岩見沢緑陵 (8月6日,7日)40名		08 旭川藤 (2月13日)13名	07 釧路江南 (11月13日)31名
平成 22(2010)年度	09 岩見沢緑陵 (8月5日,6日)21名			10 紋別 (10月16日)17名
平成 23(2011)年度	11 岩見沢緑陵 (8月5日,6日)22名 13 小樽工業 (11月21日)19名			12 音更 (10月28日)11名
平成 24(2012)年度	14 岩見沢緑陵 (8月7日,8日) 17 小樽工業 (11月22日)20名	15 函館西 (10月6日)12名 16 室蘭栄 (10月12日)22名		
平成 25(2013)年度	18 札幌北 (8月7日,8日)29名 19 滝川 (11月8日)17名 20 岩内 (11月14日)11名		21 旭川藤 (2月8日)12名	
平成 26(2014)年度	22 札幌北 (8月4日,5日)20名 23 岩内 (11月12日)20名		25 旭川藤 (2月7日)13名	24 阿寒(12月18日) *悪天候のため中止
平成 27(2015)年度	26 札幌北 (8月4,5日)19名 28 小樽桜陽 (11月13日)12名	27 静内農業 (10月30日)14名		
平成 28(2016)年度	29 札幌北 (8月3,4日)45名 30 小樽桜陽 (11月11日)12名	31 伊達 (12月9日)7名		
平成 29(2017)年度	32 札幌北 (8月7,8日)43名		34 旭川藤 (2月10日)13名	33 帯広柏葉 (10月25日)16名

平成 30(2018)年度の活動

第 35 回キャラバン研究会 in 札幌
第 36 回キャラバン研究会 in 帯広

(北海道札幌北高等学校 2018年8月6日、7日)
(北海道帯広柏葉高等学校 2018年10月24日)

4-3-3 情報教員養成プロジェクト

北海道では公立高校での情報科教員不採用が続いているため、教科「情報」の指導に意欲的な教員希望の学生を支援することによって情報科の教科指導力を持つ若い教員を増やそうと、一昨年度から「情報科教員養成プロジェクト」をすすめています。

昨年度からは、千歳科学技術大学の学生が作成した教材とそれを利用した授業案発表会に高校の教諭が参加したり学生が高校の情報の授業を見学するなどの実践も始まっています。また、北海道情報大学の教科教育法担当の方に、高教研情報部会やプロジェクトの取り組みについて見学いただくなどの活動も行っています。

今年度は、さらに取り組みを充実させ、学生の教科指導力向上を支援をすることによって北海道の情報教育の充実に貢献していきたいと考えています。

4-3-4 新授業レシピプロジェクト

情報部会では、授業の指導案や具体的な指導方法をまとめ、それを元に様々な学校で授業実践するプロジェクトを実施してきました。新授業レシピプロジェクトでは、さらに利用しやすくするため、授業案以外の、授業で活用できるゲームや演習などもレシピとしてどんどん蓄積しようとするものです。今年度は専用CMSを整備し、より簡単なアップロードやダウンロードができるように工夫を加えています。

4-3-5 平成30年度高教研情報部会アンケート集計結果報告

この度は、お忙しい時期にもかかわらず、情報部会アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケートの集計ができましたので、ご報告致します。なお、自由記述の回答に関しては、各校の様子ができるだけダイレクトに伝わるよう、ほぼ原文の形で載せさせていただきました。多くの先生方のご参考になれば幸いです。

調査内容

1.学校名 2.管内について

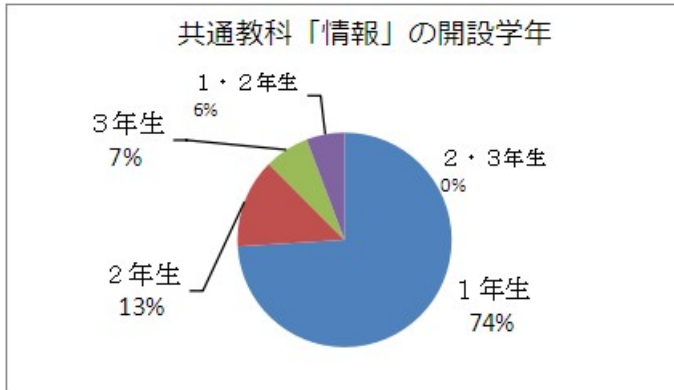
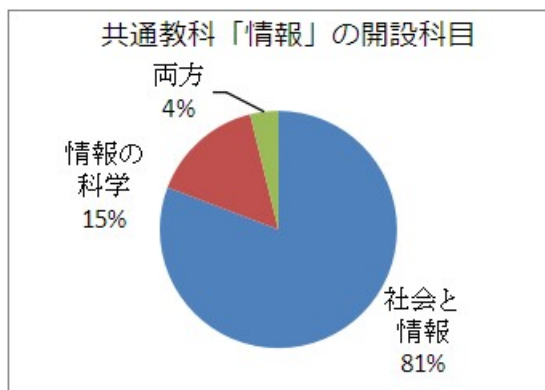
全道各地104校、112名の先生方からご回答をいただきました。

3.共通教科「情報」の開設科目

開設科目	校数	割合
社会と情報	84	80.8%
情報の科学	16	15.4%
両方	4	3.8%
合計	104	100%

4.共通教科「情報」の開設学年

開設学年	校数	割合
1年	77	74.0%
2年	14	13.5%
3年	7	6.7%
1・2年	6	5.8%
2・3年	0	0%



5. 共通教科「情報」以外の開設科目

情報活用(3学年) SS情報(2学年)
 情報課題研究・アルゴリズム・情報デザイン・表現メディア(3学年)
 情報の表現と管理(3学年) 情報メディアの編集と表現(3年選択) 農業情報処理(1・2学年)
 情報産業と社会(2年) 情報の表現と管理(2年) 情報デザイン(3年) 情報活用(3年次選択)
 情報技術基礎(1学年) 情報探求(2年次総合選択) 情報演習(2・3年) 情報と表現(3学年)

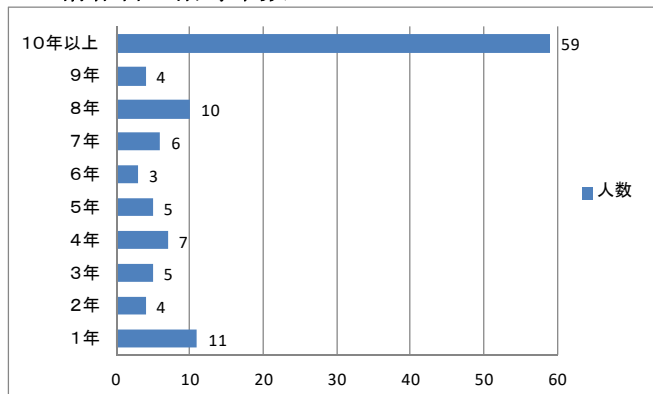
6. 職

職	人数
教諭	104
期限付き教諭	6
その他	2

7. 専任かどうか

専・兼任	人数
「情報」専任	30
他教科と兼任	82

8. 情報科の指導年数



9. 教員採用時の指導教科

教科	人数
商業	77
数学	15
理科	7
情報	5
農業	5
国語	2
農業	2
公民・外国語・音楽・保健体育・工業・水産	1

10. 今後主とする指導教科

教科	人数
商業	60
情報	50
数学	9
理科	5
農業	5
保健体育	2
国語・公民・音楽・工業・水産	1

11. 高教研研究集会への参加状況

研究集会への参加	人数
(情報で)ほとんど毎年参加している	7
(情報以外の教科で)ほとんど毎年参加している	3
(情報で)ときどき参加している	21
(情報以外の教科で)ときどき参加している	10
めったに参加しない	27
参加したことがない	44

12. 高教研情報部会のメーリングリストについて

メーリングリスト	人数
すでに参加している	33
知っているが参加はしていない	31
メーリングリストの存在を知らなかった	41
現在は参加していないが、将来参加したいと思っている	7

13. 情報科授業の指導内容や特色

- ・簡単な統計学「偏差値」「相関係数」「推定」「t検定」を取り扱っている。
- ・高大連携授業
- ・教科書を使用している座学とキータッチの練習。資格などの検定は放課後などに個別に対応している。
- ・情報に関する基礎的知識とワード、エクセルの基本操作について
- ・知識3実技3技術2道徳(含モラル)2の割合の授業
- ・教科書の内容全般+プログラミング、アルゴリズム、フローチャート、事務系アプリケーション(オフィス)と浅く広くやっています。
- ・Word、Excelなどの検定取得
- ・情報分析とコミュニケーション能力重視

- ・社会と情報における「表現と伝達」という単元の中で、土別市の名物をつくらうという課題を与えています。生徒は基礎的なアプリケーションソフトウェアの使用方を学んだ後に、その応用としてインターネット調査、資料をまとめるためにアプリケーションソフトウェアの活用といった方法で自主的に活用することができています。地元についての理解と、単元に関する理解の深まりが感じられています。最終的にはパワーポイントにまとめプレゼンテーションを行い、それを市役所の方にもご覧いただきたいと思っています。
- ・実習中心の授業
- ・オフィス系基本3ソフト・情報モラル、情報機器のしくみ、法規

- ・ディスカッションを通して、思考・判断・表現活動に取り組む教員もいること
- ・教科書中心で進めている。単元によっては短時間ではあるが体験的なことも取り扱っている。
- ・情報モラルや著作権、デジタルの仕組みの座学以外は極力ワードやExcel、パワーポイントの実習を入れるようにしている。
- ・モラル教育を中心に前期は、授業を展開している。後期は、機械実習を中心に展開している。
- ・情報化における社会への参加の仕方
- ・教科書に準ずる内容に、進学後困らないように、タイピングとExcelを商業の検定の2級レベルまでは行っている
- ・資格取得(全経文書処理能力検定試験(ワープロ・表計算))
- ・ワープロ、表計算の利用技術を中心に指導
- ・word, excel, powerpoint ソフトの活用方法。農業分野における収量等のデータ化。
- ・最新情報ニュースを毎時間取り上げる
- ・実教出版「30時間でマスター Office」を使用した実習を実施して。
- ・ワード、エクセル、パワーポイント 情報モラル、情報システム、情報の活用など
- ・座学に動画や実習を取り入れ、生徒への情報に対する興味関心を持たせるよう心掛けている
- ・交通安全ポスター作成
- ・総合学科なので色々行っている
- ・心理学や認知科学の知見を応用した、ユーザーの心的プロセス中心の授業
- ・情報モラル、プレゼン等
- ・基礎的な情報リテラシーを身につけさせること。情報モラルや情報の活用能力に力を入れています。プログラミングは昨年度からUnit(js)を採用しています。
- ・情報、ネットワーク、コミュニケーションに関する座学 アプリケーションソフト(ワード、エクセル、パワーポイント) ブラウザ(検索) プレゼンテーション(実技)
- ・ビジネス計算の小テストを取り入れている
- ・ICTと社会貢献をテーマにグループ学習と発表、相互評価 クラス全員へのアンケート調査の統計分析、発表、レポート作成
- ・情報機器の基本操作とITの光と闇
- ・商業のビジネス文書やビジネス情報に近い形。
- ・座学多めです。
- ・文書作成と表計算、プレゼンテーション その他
- ・情報モラル等
- ・前期は教科書を使用し、主に情報モラルを指導し、後期は全商情報処理検定3級の取得を目指して取り組んでいる。
- ・ワープロ・表計算のソフト利用 パワーポイントを利用したプレゼンテーション TTでの授業
- ・教科書に準じて指導している。
- ・探究活動に即実践・活用出来る知識・技能を身につけるような内容・統計的な推測や確率分布の分野や統計等とクロスカリキュラムになるよう内容・事象をモデル化しシミュレーションすることを通して、世の中のほとんどの事象が同様に確からしくないことに気づかせたり、中心極限定理を予感させるような授業・情報科のコンテンツと結びつく、出来る限りタイムリーな日常の出来事について取

- り上げて自分の考えをアウトプットするような授業・総合的な学習の時間の代替として総合的な探究の時間、理数探究のように実施している学校設定科目。その中の情報科の課題研究として Raspberry Pi を用いて Python でプログラミングを行い、超音波センサーを制御して独居高齢者に対する安否確認装置およびシステム等を生徒が開発し実験・検証する研究指導を行っている。
- ・教科書どおりの内容
- ・実習時における生徒間によるティームティーチング
- ・実技と座学を同時展開し、パソコンについて学ぶ授業は情報科でしかないので、他教科とも連携し、各種ソフトウェアの基本的な操作方法等を中心に指導している。
- ・個々(複数)で考える時間を設け、実習の場面に反映できるよう努めている
- ・パソコン教室で word, excel などのアプリケーションソフトを使用し、検定に向けた指導。期間を決めて教室で教科書と教科書準拠の学習ノートを使用し学習。
- ・情報モラルに関する内容 コンピュータの基本操作 コミュニケーションについて
- ・座学及び2年次で行われるインターンシップに関する報告書・プレゼン 見学旅行調べ学習など
- ・情報社会及びコミュニケーションの分野(座学) ワードエクセルの基本操作(実習)
- ・年度当初の段階でプレゼンテーション実習を実施し、自身の考えを他に伝えるスキルについて学習させ、コンピュータの基礎としてワード、エクセルの実習を教科書の内容と並行して実施している。座学内容と実習内容が合わない場面もあるが、1時間の授業を座学と実習の半分に区切って授業を進めている。
- ・①Excel、Access、PowerPoint の活用。②普通教科の基礎知識を使った横断的な学習。③アクティブラーニングを活用した Excel マクロの学習。④検索技術を利用し企業が求める能力を理解させ学習意欲を持たせる。
- ・本校で行っている情報の科学は日文の教科書を基本として、実技実習等も取り入れて進めております。
- ・工業校長会の計算技術検定とパソコン利用技術検定に関する内容の授業を行っている。
- ・プログラミングと問題解決をつなげた学習
- ・実技は実教の Office のテキストを利用している。全商ビジネス文書実務検定の受験を促している。
- ・ネットワーク環境を理解することと、情報セキュリティやモラルをメインにおこなっている。
- ・座学:教科書全般(主として情報モラルやセキュリティについて) 実技:ワード・エクセル・パワーポイントなど
- ・総合的な学習の時間とからめて、プレゼンテーションなど
- ・プレゼンテーション・表計算・簡単なプログラミング 探求発表等
- ・Word や Excel などの基本的な操作の練習(実技) 情報モラルとは・SNS の利用において気をつけるべき点(座学)
- ・教科書の内容を最新の情報技術やニュースと合わせて教える。
- ・教科書座学 タイピング プレゼン エクセル
- ・本校は生徒間の能力の差が大きい為、生徒間での教え合いを重視した授業を展開しています。
- ・情報モラルについて・基本的なパソコンの操作(Excel、Word、

PowerPoint) ・PowerPoint では実際にプレゼンテーションを行う

- ・WORD や EXCEL の基本操作 学校紹介ポスター・ムービー制作 見学旅行調べ学習/報告会 将来の職業調べ学習/報告会
- ・反転授業の実施。具体的にはクイズレットに教科書の重要語句をまとめておき、予習をさせる。管理画面から学習状況を確認できるので、学習状況が悪いようであれば生徒に学習するよう促す。授業では冒頭で kahoot やクイズレットライブを使い理解の程度を確認し、状況に応じて補足説明などを行った後、予習させた内容に関連するPCを使った実習を行う。また、情報モラルの育成は機会があれば常に行うようにしており、前期だけでも生徒指導部がネットトラブルの減少を明確に確認するほど成果があった。
- ・入学後すぐに情報モラルを重点的に指導。視聴覚教材や、新聞記事などを使い、身近なものとして体験的な学習を行うよう考慮している。後半は、情報発信者としてのマナーやモラルを学んだ後、プレゼンテーションを行っている。
- ・タイピング、情報モラル、デジタル表現、プレゼンテーション等。
- ・情報モラル、タイピング、文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションなど
- ・自己紹介カードの作成、オリジナルピクトグラム作成、学校CMの制作、サウンドスケープの作成、オリジナル着信音(着メロ)の制作、統計グラフレポートの制作と発表、探究活動のプレゼンテーションなど。学校向けSNSを授業内外で活用している。

14.情報の授業を担当する上での悩み等

- ・今は困ってないが、大学入試に情報が入ることでカリキュラムを変えなきゃいけないなと思っている(例えば現状あまりプログラミングは詳しくやってないなど)
- ・進路と直結しない
- ・忙しさのあまり教材研究の時間がとれない
- ・新学習指導要領では小・中学校で学んでいる内容を踏まえて、更に発展的な内容を指導していくことになるが、学んでくる内容が千差万別である状態で何を取り扱っていくのが悩みどころ。
- ・生徒の習熟の差が大きい
- ・生徒の持つ格差 情報社会の常識と学校現場では非常識になりかねないこと。
- ・自分が行っていることが、どれくらい学習指導要領を網羅しているか不安。
- ・他の教科と連携した時間を確保したい。
- ・免許外指導。
- ・ICT 機器の不足。iPad の導入を期待しています。ICT 機器の使用が目的ではないことを承知したうえで、①デジタルデバインドを広げないこと②授業に広がりをもたせることができることから、配布を願っています。
- ・中学時までの技術習得の差
- ・中学校段階での実技スキルの差
- ・1学年1単位と限られた時間の中で、科目の概要を伝えることにとどまり、アクティブラーニングをするのに十分な授業時数が確保されていないこと
- ・1単位で実施しているため全員の生徒の理解を深めるところまで至っていない。
- ・今後情報 I が必修となり、プログラミングが行われるので、そのた

- ・独自に作成したスライドやプリントを使用した授業を行っている。Windows の基礎や Word や Excel 等の実技も含めた授業を展開。プログラミングではスクラッチを使用して自動販売機を作成する内容を実施する予定。
- ・まずは、教科書に沿って行っている。・今後は、Word、Excel、PowerPoint を利用し、基礎知識を育てたい
- ・教科書の内容とビジネス文書実務検定 教科書は、実技の部分と、情報モラルについて重点的に実施。
- ・ワープロ・表計算ソフトを活用しての授業が多い。教科書等を使用している座学が3割から4割
- ・商業科と連携を取りながら、ビジネス文書検定などの問題を使い実習を行っています。
- ・ワープロの基本的な打ち方から始めていること
- ・今年度は年間20時間、遠隔授業を行っていただき、情報の専門的内容をご教授いただいている。
- ・できるだけ、実技の時間を増やし、筆記等の座学は少なくしている。
- ・Word、Excelの基本操作や検定取得に向けた授業。農業科目と関連させて、農業クラブ実績発表大会に向けたプレゼンテーションの作成。
- ・授業内で資格取得(全商ビジネス文書検定)を目指し取り組んでいる。その他にExcelの基礎、パワーポイントの基礎を学習している。

めの自分自身のスキル向上が課題である。

- ・生徒に対して、いかにモラル教育を身につけさせるか。
- ・今後のプログラミング教育
- ・1人で8クラスの授業をしているが、同じ話を8回するので多少疲れる
- ・個々の技術差が大きく、全体の底上げの指導法について
- ・情報モラルの効果的な指導
- ・機器の管理で多忙です。
- ・高校入学の時点で、コンピュータができる生徒とできない生徒の差が大きくなっていること。
- ・授業中、教員機の画面を生徒に提示しながら実習をすることが多いのですが、その間の生徒の様子把握しにくいことが悩みです。TTの先生に手助けしてもらっていますが、間の取り方や説明の速さ、内容など日々反省するところが多いです。・急な機材やシステムの不具合で授業が進まないことがあります。その復旧作業にも時間をとられること。
- ・情報準備室が無く、授業準備が滞る時がある
- ・他校が情報の授業で実施している内容や参考にした点についての情報が少ないこと
- ・XPを使わざるをえない場面がある
- ・TTがいらないため、人手が不足している。
- ・通信ネットワーク速度が著しく低い。
- ・機材の老朽化への対応に尽きます。
- ・自分自身が使用しないSNSを取り扱うこと。(生徒が教えてくれます)
- ・PCの操作性の問題。アプリケーションソフトの問題。
- ・キーボードやマウスの使い方が、スマホの影響から苦手になって

いる生徒の明らかな増加傾向

- ・他校での授業内容と本校での授業内容の違いとこの内容で良いのかとの自問自答です。
- ・教科情報の幅が広いので、何を優先して生徒に指導していけばよいのか。
- ・パソコンが40台しかないのと、ネットワークの管理が難しいこと。
- ・スクールネットの規制が厳しいのと、情報科に対する予算が極めて少ない。
- ・パソコンに追加してソフトウェアを入れることができない。
- ・専任1名のため様々な面で負担が大きい
- ・情報を指導する教員が1人ということ ・授業はTTではなく、1人ということ
- ・授業以外の業務が多忙なため授業準備の時間は身を削って準備を行っていること ・1人教科、科目であるため準備が大変。幸い情報科の教員免許を持つ実習助手がおりますので、相談しながらなんとかやっていますが…
- ・高度化する情報技術に対応すること
- ・初めて教えるのですべてが悩みです
- ・教員数が少なく、TT がいないためマシントラブル等が起こった際には時間が取られてしまう。
- ・プログラミングを授業でどのように取り入れていくか
- ・1人しか担当者がいないので、コンピュータの管理が大変である。
- ・内容がどんどん変化するため、教材研究が追いつかない 1人で指導するため、PCトラブルの対応が難しい。
- ・生徒に興味関心を持たせられる情報の収集
- ・実技指導の際、細かいところまで行き届かないときがある。
- ・①実習内容 ②教室の環境整備 ③専門科目情報の整備 ※ 出版会社が少ない、内容の整備
- ・1 情報処理室の機材の更新およびメンテナンス 2 科目の学習内容と生徒の学力に沿った授業の展開
- ・パソコンを使用する場合、一人で授業を行っているため、きめ細かな指導が出来ていない。
- ・実施した内容と教科書等の関連
- ・異動してきたばかりですが、昔ながらの商業科目のような情報からどのように移行するか。
- ・日進月歩な世界なので、授業内容を考えるのが大変である。
- ・どの教科・科目にも当てはまりますが、実技になると特に中学校段階での指導の差や、家庭での取り組みの差があり、生徒の能力差が顕著に目立つ傾向にあります。
- ・今年度赴任したばかりのため模索中
- ・教科書通りに指導するよう務めています、内容的に変化の多い教科なので、何を基準に指導すれば良いのか苦慮します。
- ・他教科と兼任によるため、毎年の継続が無い(担当する年が数年空く)
- ・本校に来たばかりなので、授業の流れや内容を理解して頑張っ

ているところです。

- ・教材研究において参考のできる資料が少ないと感じています。
- ・担当教員が一人しかいないので、相談することができない。
- ・情報の授業を3人で受けもっている。前任のサーバ管理者(専門ではない)からの引継ぎ資料がないため、ネットワークに不具合があっても対処することが困難。2016年度より町立移管したため予算がなく、サーバ室にエアコンが設置されていないなど、授業の悩みというよりはハード面での悩みが多い。
- ・個人個人のスキルがバラバラ 情報科に求められるものがどんどん増えている ハードウェア・ネットワークなどのインフラの整備が整っていない
- ・プロジェクターやスクリーン・モニターの設備が不十分
- ・新学習指導要領の内容について、どこがどのように変化するかが勉強不足のため理解し切れていない部分がある。
- ・情報が主眼ではないため、教科情報の専門的知識が弱い。他の高校がどのように授業を組み立てているかわからない。
- ・回線速度とフィルタリング。特に協同作業させたいときに google apps 等のクラウドサービスが利用できればと思う。
- ・授業の展開方法
- ・特にありませんが、マンネリ化しています。
- ・キーボード操作が不得手な生徒が多いと感じる。インターネットを使用した情報収集は得意であるが、たくさんの情報を精査し、活用することが不得手である。
- ・座学と実習のバランスをどのようにとっていくか。
- ・生徒ごとの PC に関する知識・技術の差が大きく開いている。
- ・プログラミング教育の促進
- ・ICT 支援員が配置されていないため、トラブルやメンテナンスに時間が割かれてします。
- ・相談する相手がいないため、ほぼ一人で授業や考査の内容を考える必要があること。
- ・全て
- ・教科書が専門的な内容が多すぎ
- ・検定との兼ね合い
- ・時数が少なく多方面にわたる知識を教えることができない。
- ・座学と実習の時数のバランスや、実習で取り組む内容などに悩んでいます。
- ・まだ情報の専門的知識が浅いこと。
- ・授業に活用できる教材の情報収集が乏しい。研修会はためになるが、遠隔地への参加は頻繁にはできない。
- ・パソコンやソフトのバージョンが古いので、検定の時、問題と解答に誤差が生じることがある。
- ・基本的に農業の教員が持ち回りで指導をしているので教科の専門的知識が足りない。研修も農業の研修出席が精一杯で情報・商業の研修に出席出来ない。情報専門の教員が欲しい。

15.研究会等で学んでみたい内容

- ・なんでも面白いです。
- ・プログラミング
- ・他校での取り組みを知りたいです。
- ・道徳教育とデジタルポートフォリオ
- ・すべての教科・科目との融合
- ・プログラミング。 プログラミング以外の単元でのアクティブラーニングの手法。
- ・デジタルデバイドに関するエビデンスを軸に、「今後このような能力が求められるよね」といった講義と、その能力を身に付ける実技を拝見したいです。
- ・学校祭での旗や仮装行列などにおける著作権への配慮の方法
- ・アルゴリズムの指導方法について 免許外の方で指導に苦慮されている方もいるのではないかと考えるため、こちらの内容を希望します
- ・体験的な授業の例および評価について
- ・新カリに向けた授業内容の精選と小学校で行われるプログラミング学習への対応
- ・情報モラルについて大切なこと。
- ・情報モラルの効果的な指導 プログラミングに関わる指導
- ・情報科目を利用した進学指導について
- ・画像・図形処理、データベースの利用
- ・次年度以降の情報科目についての情報共有と、他校での取組について
- ・IOT
- ・各校の特色ある学習内容を知りたいです。 ありがちなものは情報部会は好まないかもしれませんが(笑 そういうベタなコーナーもあると嬉しいのですが。
- ・他校で実践されている、生徒の反応が良い単元の指導や実践内容を学びたいです。
- ・新センター試験への対策
- ・ビッグデータの分析の基本知識 AIの基本的知識 仮想通貨の限界
- ・ネットワークの管理やプログラミングの基礎。
- ・ものすごく簡単なC言語
- ・楽しい内容のもの
- ・授業で活用できる内容であれば何でも・
- ・授業に使える実習
- ・教育課程編成と「情報Ⅰ」、「情報Ⅱ」・専門学科:情報学科について ・数学Ⅰ「データの分析」、数学Ⅱ「統計的な推測と確率分布」、探究的な学習の時間、理数探究、公民科「公共」等と「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」のクロスカリキュラムによる授業開発について ・2024年度以降入試における情報科のCBTによる共通テスト導入について ・現行教育課程における年間指導計画、シラバスと実際の年間の指導内容及びその指導内容の順番について
- ・タブレット端末を利用した授業

- ・効果的、理解しやすいプログラミングの指導方法
- ・カリキュラム改訂後のプログラミング授業に内容について
- ・コンピュータを使わないプログラミングの方法
- ・他校の教科担任の授業の計画や進め方をしているのか学んでみたい。
- ・①道外高校の取り組み ②道外高校の情報科の取り組み ③進路実現に向けて「情報」の影響 ※意見交換、視察報告など、今後の参考としたいです。
- ・情報機器を活用した授業内容
- ・企業等が抱える情報的問題と教科書等の問題解決の内容とが関連した内容
- ・極めて学力の低い生徒に対するプログラミング指導
- ・AIを使いこなすとはどういうことか。
- ・技術講習ではない、高等教育機関の専門家による講話など
- ・日頃行われている授業の実習実践例
- ・新カリを踏まえた授業実践
- ・思考力・判断力に関する授業内容や考査問題例
- ・基礎的なところから学びたい。
- ・調べ学習の進め方・プログラミング教育
- ・新学習指導要領で指導するプログラミングについて
- ・プログラミングなど新学習指導要領に追加で入ってきたもの
- ・新学習指導要領について ・主体的・対話的で深い学びについての具体的な他校の実践例
- ・簡単なプログラミング教育 サーバー管理など
- ・昨日のサマースクールではプロセッシングを楽しく学ばせていただいた。 今後もやはりプログラミングについて学びたいと思うが、流行の言語ではなく、生徒が食いつくような言語があればと思う。
- ・情報モラル指導について、より生徒の考えを深められるような授業展開について
- ・年間指導計画と具体的評価の方法
- ・「情報Ⅰ」の授業で実施可能な学習活動や授業デザインとその評価方法。
- ・他の学校で取り組んでいる授業のスライドやプリント等を共有できる場があれば嬉しいです。
- ・基本的な事をお聞きし勉強させて頂きたい。
- ・フリーソフトを活用した実習
- ・生徒がわかりやすく、楽しく学べるような実習について知りたいです。
- ・情報やICT機器の基礎的内容。
- ・現在行われている研究会は魅力的なものが多いと思います。 なかなか参加が難しいので、資料などをダウンロードできるなど情報収集できる場があればありがたいです。
- ・プログラミング指導方法、他校の情報の授業の指導内容
- ・出席自体が難しいが Word、Excel、PowerPointの基礎的な操作。 授業で使用できる(興味関心を引ける)教材の提示 各校の情報教育の進め方など

16.その他・ご意見等

- 平成15年度より教科「情報」が始まりましたが、急造「情報」科教員も人事異動により、かなり偏りができたのかと感じます。質問項目に所属校の情報科教員が何名いるか、臨時免許(免許外)で教えている、などを追加すると実態がより明確にできるかと思えます。
- 今年大学を卒業し、本校に赴任致しました。研究会等に関する知識が乏しく、校内業務もあり参加が難しく状況です。他校の先生方からもアドバイス等をいただき、研究会にいずれは参加させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。
- 研修でプログラミングを行う機会が多いとありがたいです。
- 「情報の科学」は本校では開設しておりません。アンケート回答のためチェックしただけですので、ご了承ください。
- 情報部会の先生方にはいつもお世話になっています。今後とも易しい講習会を期待しております。
- 高教研情報部会役員の先生方 アンケート集約その他イベント開催いつもお疲れ様です。先生方のご苦労をお察しします。学校事情、部活動の大会やその他業務によってなかなか高教研情報部会の研究会になかなか参加出来ず残念です…
- 昨年度の高教研分科会での内容は大変参考になるものでした。早速、持ち帰って授業に取り入れさせていただきました。

今年度も可能であれば参加したいと考えておりますので、よろしく願います。

- 全国で行われている情報科の共通科目の指導状況が一番知りたいです。自分が実践している授業内容が目標と乖離していないか心配になることがあります。
- 情報の教員採用が実施されていないことについて多くの不安を感じる。今までに勤務した私立の学校も含め、情報で採用された教員はなかなかいない。前任者がどのような授業を実施していたかを確認すると、情報が専門ではない先生が「情報 A」の頃に多かった「基礎的なパソコンの使い方講座」のような内容の授業を行っていたということが非常に多い。このままでは情報Ⅰや情報Ⅱに教員が対応できないという事態が多発するのではないかと危惧している。また、採用枠がないのであれば情報の教員を目指す学生がいなくなるのではないかとも思う。また、個人的にも期限付きという立場への不安も感じる。
- 毎年の調査ご苦労様です。貴重な基礎資料になりますね。
- 部活動・協会の仕事もあり、ほぼ参加はできない。
- 情報部会に出席出来ず、情報の知識も少ないですが生徒のために、生徒の今後に活用できる情報の知識を学びたいです。

4-3-6 全国高等学校情報教育研究大会参加報告

本年度は、全国高等学校情報教育研究大会への参加派遣希望はありませんでした。

MEMO

4-4-1 平成30年度 一般会計予算

(1) 収入の部

科目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	250,000	335,901	300,000	50,000	
本部交付金	228,430	234,920	228,430	0	
雑収入	0	3	0	0	
合計	478,430	570,824	528,430	50,000	

(2) 支出の部

科目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	増減(△)	適用
講師旅費・謝金	180,000	175,000	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	50,000	9,905	50,000	0	ワークショップ企画
会場費	100,000	0	0	△100,000	
運営費	30,000	16,980	50,000	20,000	記録メディア等
研究調査費	30,000	3,446	50,000	20,000	研究資料・書籍
備品運搬費	10,000	0	30,000	20,000	機材運搬
事務通信費	10,000	3,792	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	15,000	0	75,000	60,000	機材購入
予備費	53,430	0	83,430	30,000	雑費
合計	478,430	209,123	478,430	528,430	

4-4-2 平成30年度 特別会計予算

(1) 収入の部

科目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	60,000	59,089	60,000	0	
企業広告協賛金	100,000	100,000	100,000	0	
雑収入	0	2	0	0	
合計	160,000	159,091	160,000	0	

(2) 支出の部

科目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	増減(△)	適用
運営費	60,000	34,062	60,000	0	
役員費	80,000	103,170	90,000	10,000	
積立会計	0	0	0		
予備費	20,000	82	10,000	△10,000	
合計	160,000	137,314	160,000	0	

4-4-3 平成30年度 積立会計予算

(1) 収入の部

科目	平成29年度 予算額	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	89,192	89,192	21,912	△67,270	
特別会計より	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	89,192	89,192	21,912	△67,270	

4-4-4 平成30年度 一般会計中間報告

(1) 収入の部

科目	平成30年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	300,000	361,701	61,701	
本部交付金	228,430	235,900	7,470	調査研究費
雑収入	0	1	1	利息
合計	528,430	597,602	69,172	

(2) 支出の部

科目	平成30年度 予算額	中間報告	残額	適用
講師旅費・謝金	180,000	0	180,000	
事業費	50,000	21,240	28,760	ドメイン名、サーバ使用料
会場費	0	0	0	
運営費	50,000	4,190	45,810	飲み物等
研究調査費	50,000	0	50,000	
備品運搬費	30,000	0	30,000	
事務通信費	10,000	3,108	6,892	郵送料、振込手数料
備品購入費	75,000	0	75,000	
予備費	83,430	0	83,430	
合計	528,430	28,538	499,892	

4-4-5 平成30年度 特別会計中間報告

(1) 収入の部

科目	平成30年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	60,000	21,777	△38,223	
企業広告協賛金	100,000	20,000	△80,000	
雑収入	0	0	0	
合計	160,000	41,777	△118,223	

(2) 支出の部

科目	平成30年度 予算額	中間報告	残額	適用
運営費	60,000	29,856	30,144	役員昼食、飲み物等
役務費	90,000	11,580	78,420	旅費、宿泊費
積立会計	0	0	0	
予備費	10,000	0	10,000	
合計	160,000	41,436	118,564	

4-4-6 平成30年度 積立会計中間報告

(1) 収入の部

科目	平成30年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	21,912	21,912	0	
特別会計より	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合計	21,912	21,912	0	

(2) 支出の部

科目	平成30年度 予算額	中間報告	残額	適用
運営費	—	0	—	
役務費	—	0	—	
事務通信費	—	0	—	
予備費	—	0	—	
合計	—	0	—	

4-5 平成31年度の研究テーマ

平成31(2019)年度研究テーマ趣旨説明文

研究テーマを提案するための前提として、2022年に完全実施を迎える学習指導要領の意図を、解説情報編を基にして確認します。

総説では、「生きる力」がより具体的に、教育課程の全体を通して育成する資質・能力とされ、次の3つの柱に再整理されています。

- 1) 知識・技能の習得
- 2) 思考力・判断力・表現力等の育成
- 3) 学びに向かう力・人間性等の涵養

いわゆる「主体的・対話的で深い学び」は、これらを育成するための授業改善の方法論です。

そして、情報に関する科学的な見方や考え方を働かせてさまざまな問題の発見や解決に生かすことは、この「深い学び」を実現するためには特に重要であるとしています。

各科目の「内容とその取り扱い」では、具体的な学習活動のイメージを助けるような記述を期待するところなのですが、少なからずの混乱を覚えるかもしれません。

その理由には、これまでの学習内容がさらに深まり、さらに多岐に広がったことがあると考えられます。

情報社会から強く求められるようになったいわゆる「データサイエンス」を導入することによって、この流れが加速しているのでしょう。

特に必修修である「情報Ⅰ」では、現行の「情報の科学」を基本として「プログラミング」を重視し、さらには「情報デザイン」を指導内容に加えています。

さらに、このような指導内容だけにとどまらず、指導の目標を「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」といった観点から示しています。

確かに目標と評価は一体的に考えるべきですから、評価を観点別に行う以上は、目標も観点を絞って考えることは自然なのかもしれません。

しかしながら、こうした記述そのものが熟れていないこともあり、観点それぞれの差異を読み取るのは困難であると言わざるをえません。

この状況に対処するためには、これまでの観点別評価の考え方をさらに進化させながら、学習指導の目標を評価の観点から常に確認し続けていくべきなのでしょう。

ここまで見てきたように、先進性を求めるが故に不安や戸惑いを抱かせる新学習指導要領ですが、私たちはここで手をこまねいているわけにはいきません。

「問題を主体的に発見し明確化し、解決策を考える活動」は、何も生徒たちだけが取り組むべきものではありません。

ときには協力しながら主体的に、問題を探究する、解決策を探り試す、結果を評価する、そしてさらに向上を目指す。

このような問題解決の活動を、学びのメカニズムとして全ての授業に意図的に取り込むことはもちろん、私たち自身が授業改善の活動の中で取り組むことが求められます。

新しい学習指導要領は私たちに、問題解決を中心とした学びにアプローチするための「学びの工夫」を求めています。

蓄積してきた教材や実践を財産にして、新しいアプローチに挑戦し、蓄積したアイデアや実践を共有したりする。

私たちにとってこうしたことは、これまでも求められていたし、これまでも行ってきたことです。

ただその目的が、学びの定義が学習改善の方法論の中で明確になったことを踏まえて、もっと意識的にその本質に迫る必要性があるということです。

以上を平成31(2019)年度の研究テーマの趣旨として、次のように提案します。

「私たちにとっての問題解決」(授業改善の質的転換への挑戦)

4-6-1 研究紀要

情報部会では下記により、次年度に向けての研究紀要の執筆者を募集します。執筆は個人によるものでもグループによるものでもかまいません。日頃の研究の成果を発表する場としてご利用いただきたいと思いますとおります。

平成31年度北海道高等学校教育研究会研究紀要執筆者の募集について

平成32年3月に発行される本研究会「研究紀要第57号」の教科部会「情報」の執筆者を募集します。募集する研究論文は、高教研の研究主題である、

「未来を担う人を育む北海道高等学校教育の創造」

に沿ったもので、以下の要件を満たしているものです。

(要件)

- ・執筆者は高教研の会員に限る。
- ・個人的でない内容である。
- ・単年度で完結した研究である。
- ・高校教育に関わる研究である。
- ・数年度のスパンにおいて、特定校・特定個人に偏らない。
- ・文字数は25,000文字以内(横25文字×1,000行)

個人もしくはグループで執筆を希望する会員は、研究紀要募集担当(高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp))にご連絡ください。choice メーリングリストでも募集案内を流します。執筆に関する質問もこちらで承ります。

執筆の希望者が複数出た場合は役員会で執筆者の選考を行います。

4-6-2 キャラバン研究会

積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、今年度に引き続き、キャラバン研究会を実施します。次年度は、実施実績の少ない各地区管内での実施を努力目標とします。キャラバン研究会の開催についてのお問い合わせは高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp)まで。

4-6-3 高教研情報部会アンケート

北海道内の情報科と担当する先生方が置かれている状況を把握・共有し、高教研情報部会としての活動をより有意義で質が高い先生方のニーズに合ったものにするために、次年度もアンケートを実施します。なお、前回のアンケートでいただいたご意見を基に、アンケート設問や結果の報告などについての検討・改善を加えます。

4-6-4 全国高等学校情報教育研究会全国大会参加派遣

高教研情報部会では、北海道の情報科教育の質をより高いものにするを目的として、高教研情報部会会員の、全国高等学校情報教育研究会全国大会への参加派遣補助を行っています。一昨年度までは派遣に際して勤務地から会場までの交通費と宿泊費を情報部会の特別会計から全額支出してきました。しかし全額支給を行うことが予算的に厳しくなったため、2万円の補助とさせていただきますこととなりました。

次年度も、派遣補助人数は原則1名とし、choiceウェブページ上およびchoiceメーリングリストで告知し、希望者を募ります。派遣者は高教研情報部会総会での報告義務があります。

平成31年度第12回全国高等学校情報教育研究会全国大会は、2019年8月10日(土)11日(日)に、国立大学法人和歌山大学で開催されます。

全国大会の詳細は <http://www.zenkojoken.jp/> で確認してください。

4-7-1 平成31年度 一般会計予算案

(1) 収入の部

科目	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	平成31年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	335,901	300,000	300,000	0	
本部交付金	234,920	228,430	234,920	6,490	
雑収入	3	0	0	0	
合計	570,824	528,430	534,920	6,490	

(2) 支出の部

科目	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	平成31年度 予算額	増減(△)	適用
講師旅費・謝金	175,000	180,000	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	9,905	50,000	50,000	0	ワークショップ企画
会場費	0	0	0	0	
運営費	16,980	50,000	50,000	0	記録メディア等
研究調査費	3,446	50,000	50,000	0	研究資料・書籍
備品運搬費	0	30,000	30,000	0	機材運搬
事務通信費	3,792	10,000	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	0	75,000	75,000	0	機材購入
予備費	0	83,430	89,920	6,490	雑費
合計	209,123	528,430	534,920	6,490	

4-7-2 平成31年度 特別会計予算案

(1) 収入の部

科目	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	平成31年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	59,089	60,000	20,000		
企業広告協賛金	100,000	100,000	100,000		
雑収入	2	0	0		
合計	159,091	160,000	120,000		

(2) 支出の部

科目	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	平成31年度 予算額	増減(△)	適用
運営費	34,062	60,000	30,000	△30,000	
役員費	103,170	90,000	80,000	△10,000	
積立会計	0	0	0	0	
予備費	82	10,000	10,000	0	
合計	137,314	160,000	120,000	△40,000	

4-7-3 平成31年度 積立会計予算案

(1) 収入の部

科目	平成29年度 決算額	平成30年度 予算額	平成31年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	89,192	21,912	21,912	0	
特別会計より	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	89,192	21,912	21,912	0	

5 その他

5-1 北海道高等学校教育研究会 情報部会規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、北海道高等学校教育研究会情報部会と称する。

(目的)

第2条 本会は、北海道高等学校教育研究会の目的に準じ、共通教科ならびに専門教科「情報」の教育(以下、情報教育と称する)に関する事項を研究し、会員相互の研修と識見の向上につとめ、情報教育の振興を図る。

(会員)

第3条 本会の会員は、北海道高等学校教育研究会の会員であつて、情報教育を研究する者、ならびに情報教育の趣旨を生かした教育活動を行おうとする者をもって構成する。

第2章 事 業

(事業)

第4条 本会の目的を達成するため、情報教育に関する研究を通して下記の事業(北海道高等学校教育研究会会則第4条による)を行う。

- (1) 研究会の開催
- (2) 機関誌への寄稿
- (3) 講習会、講演会の開催
- (4) その他本会の目的達成に必要と認められる事業

第3章 組 織

(役員と任務)

第5条 本会の役員と任務は、次のとおりとする。

- (1) 部会長 (1名 本会の運営を統括し、本部役員となる。)
- (2) 副部会長(2名 部会長を補佐し、部会長に事故あるときは職務を代行する。)
- (3) 監事 (2名 本会の業務および会計を監査する。)
- (4) 幹事 (若干名 本会の会務に参与する。)
- (5) 事務局長(1名 本会の事務を統括し、本部との連携を図る。)

(役員を選出と任期)

第6条 本会の役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長とする。
 - (2) 副部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長、副校長または教頭とし、部会長が委嘱する。
 - (3) 監事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
 - (4) 幹事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
 - (5) 事務局長は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
- 2 役員任期は1年とし、再任を妨げない。
3 情報部会総会において、役員を報告する。

(事務局)

第7条 本会の事務局は、原則として幹事によって構成される。

2 必要に応じて、札幌市内および近隣の本会会員をその構成員とすることができる。

第4章 会 議

(本部役員会)

第8条 本部の役員会(年3回)には、部会長と事務局長が情報部会を代表し出席する。

(役員会)

第9条 役員会は、部会長が招集し、次の事項を審議する。

- (1) 事業報告および収支決算
- (2) 監事による監査報告
- (3) 事業計画および、収支予算
- (4) 役員の選出
- (5) その他、必要とする事項

2 臨時役員会は、必要に応じて部会長が招集する。

(総会)

第10条 総会は、北海道高等学校教育研究大会の教科別集会において開催し、会の規約や業務、会計に関する事などについて審議する。

第5章 会 計

(経費)

第11条 本会の経費は、北海道高等学校教育研究会からの交付金、およびその他の収入による。

(書記・会計)

第12条 書記・会計に関する業務は、事務局員が担当する。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日より始まり翌年3月31日までとする。

第6章 その他

(規約の改廃)

第14条 規約の改廃は、役員会で審議し、総会で承認するものとする。

(細則)

第15条 本会に必要な細則は、別に定める。

附 則

- (1) この規約は、平成15年1月10日より施行する。
- (2) 平成16年1月9日 第6条(2)を改正。
- (3) 平成24年1月12日 第2条、第3条、第6条(2)の一部を改正。
- (4) 平成25年1月10日 第9条を改定。
- (5) 平成30年1月11日 第2条、第3条、第4条、第5条、第6条、第7条、第9条を改正。

5-2 参加者名簿

No.	支 部	学 校	氏 名	参加	懇親会
1	石狩	札幌南	小甲 正	◎	
2	石狩	札幌北	高橋 昭仁	◎	
3	石狩	札幌北	前川 繁信	◎	
4	石狩	札幌北	前田 健太郎	◎	
5	石狩	札幌手稲	葛西 勇樹	○	
6	石狩	札幌厚別	鈴木 崇令	◎	
7	石狩	札幌稲雲	鶴間 伸一	◎	
8	石狩	札幌英藍	梅田 充	◎	
9	石狩	札幌英藍	武藤 良弘	◎	
10	石狩	有朋	奥村 稔	◎	
11	石狩	江別	風上 拓弥		
12	石狩	千歳北陽	川下 慈博	○	
13	石狩	石狩翔陽	木村 久	○	
14	石狩	石狩南	澤田 真泰		
15	石狩	札幌旭丘	高瀬 敏樹	◎	
16	石狩	札幌旭丘	指田 あすか	◎	
17	石狩	札幌旭丘	溝口 義一	◎	
18	石狩	札幌旭丘	高木 裕	◎	
19	石狩	札幌開成中等教育	澤谷 明憲		
20	石狩	札幌開成中等教育	塚本 茂人	○	
21	石狩	札幌藻岩	高木 昭信		
22	石狩	札幌清田	杉本 式史	◎	
23	石狩	札幌清田	後藤 信	◎	
24	石狩	札幌新川	天野 将寿	◎	
25	石狩	札幌平岸	高塩 洋志	◎	
26	石狩	札幌大通	佐伯 友美	◎	
27	石狩	札幌大通	佐々木 大輔	◎	
28	石狩	北海	岡部 征和		
29	石狩	札幌静修	石井 翼	○	
30	石狩	札幌北斗	古澤 正三	◎	
31	石狩	札幌山の手	鳴原 隆之		
32	石狩	札幌山の手	長谷川 秀博		
33	石狩	札幌龍谷学園	竹本 正慶	◎	
34	石狩	札幌龍谷学園	相蘇 孝哉	◎	
35	石狩	北翔養護	阿部 優	○	
36	石狩	道教育研究所	佐藤 公敏		
37	道南	函館西	岩谷 義久	◎	
38	後志	小樽潮陵	津端 公彦	◎	
39	後志	小樽商業	島田 亮子	◎	
40	後志	高等聾	草間 由紀子	◎	
41	空知	美唄聖華	古屋 順一	◎	
42	空知	滝川	池田 弘樹	◎	
43	道北	旭川西	小玉 昌宏	○	
44	道北	旭川北	帰山 悟	◎	
45	道北	留萌	山下 賢一	◎	
46	道北	浜頓別	堀井 圭司		
47	道北	旭川藤女子	鎌田 亮樹	◎	
48	オホーツク	北見北斗	小野 慎一郎	◎	
49	オホーツク	北見柏陽	敦賀 和芳		

No.	支 部	学 校	氏 名	参加	懇親会
50	オホーツク	北見商業	鈴木 健之	○	
51	オホーツク	津別	福光 亮		
52	オホーツク	滝上	田中 教之	◎	
53	釧根	釧路江南	小湊 秀子	◎	
54	十勝	帯広柏葉	土田 泰裕	◎	
55	十勝	帯広緑陽	宮川 尊充	◎	
56	十勝	幕別	下川 幸宏		
57	十勝	鹿追	金谷 梅太郎	◎	
58	日胆	伊達	伊藤 崇	◎	
59	日胆	えりも	佐藤 健	◎	
60	一般参加	リクルート	岩崎 千恵	○	

5-3 懇親会のご案内

高教研研究集会情報部会「大懇親会」

今年も恒例の大懇親会を開催致します。ぜひ、奮ってご参加ください。

日時 平成31年1月10日(木) 18:00~20:00

会費 4,000円(飲み放題・税込)

場所 うおや一丁札幌駅店

札幌市北区北6条西1丁目(JR高架下)

電話(050)5828-7347



MEMO

平成 30 年度 北海道高等学校教育研究大会教科別集会情報科部会アンケート

※今後の教科別集会、企業展示・企業プレゼンの参考にさせていただきます。本日の内容に関するご意見やご感想をお願いします。

質問1 開会式について

(1) 内容について何かございましたら記入してください。

質問2 ワークショップについて

(2) ワークショップはあなたの期待に応えるものでしたか。次の4段階の数値でお答えください。

※4:期待通り、3:ある程度期待した通り、2:ちょっと期待した内容と異なる、1:期待した内容ではなかった
()

(3) 難易度を次の4段階の数値でお答えください。

※4:難しい、3:やや難しい、2:やや易しい、1:易しい
()

(4) ワークショップの内容は今後の授業やあなた自身の研修に役立ちそうですか。次の4段階の数値でお答えください。

※4:具体的に何かに役立ちそう、3:何かに使えそうな気がする、2:あまり役立ちそうにない、1:全く役立ちそうにない
()

(5) その他にワークショップの感想・意見・要望がございましたら記入してください。

(6) 今後のワークショップの内容としてどのようなものを期待しますか。(複数回答可)

- () 教科書にある内容の授業実践例の紹介。
- () 教科書にないオリジナルな授業の実践例や構想の紹介。
- () 先進的な技術を易しく解きほぐすもの。
- () セキュリティや情報モラル・マナーに関するもの。
- () 情報デザインに関するもの。
- () アルゴリズムやプログラミングに関するもの。
- () 情報通信ネットワークとデータの活用に関するもの。
- () アクティブ・ラーニングなど授業法に関するもの。
- () 観点別評価や形成的評価に関するもの。
- () その他()

質問3 基調講演について

(7) 基調講演の満足度を、次の4段階の数値でお答えください。

※4:満足、3:まあ満足、2:やや不満、1:不満

()

(8) 基調講演の感想等がございましたら記入してください。

(9) 今後の基調講演でお話を聞いてみたい方がいらっしゃいましたら紹介してください。

質問4 総会・閉会式について

(10) 内容について何かございましたら記入してください。

質問5 全体を通しての感想・意見・要望がございましたら記入してください。

質問6 企業展示・企業プレゼンについて、もっと聞きたい・知りたい・思いついたことなどがございましたら
 企業ごとに記入してください。(参加企業には、最下欄の個人情報を含めて情報提供します。)

アライドテレシス株式会社	株式会社アイ・オー・データ機器
株式会社内田洋行	株式会社 NTTPC コミュニケーションズ
株式会社バッファロー	株式会社ビーマップ
株式会社ベネッセコーポレーション、Classi 株式会社	実教出版株式会社
千歳科学技術大学	東京書籍株式会社(広告のみの協賛)
日本データパシフィック株式会社	日本文教出版株式会社
富士通クラウドテクノロジーズ株式会社	北海道日興通信株式会社
リコージャパン株式会社	

※掲載順は企業名等の 50 音順です

学校名等 (所属先)		お名前	
---------------	--	-----	--

※ご協力ありがとうございました